

令和3年度市政懇談会 会議録（要旨）

テーマ：地域が抱える問題について

【日 時】 令和3年4月25日（日） 10時00分 ～ 11時00分
【場 所】 西岐波ふれあいセンター
【出席者】 ○篠崎市長 ○地区代表者（6名） 西岐波自治会連合会会長 : 井原 八郎 西岐波コミュニティ推進協議会会長 : 中村 達章 西岐波社会福祉協議会会長 : 波多野 百合夫 西岐波婦人連絡協議会会長 : 中野 リエ子 西岐波環境衛生推進協議会会長 ふるさと運動実行委員会会長 : 宮森 由香里 ひと・まち・絆 会長 : 肥塚 秀樹 ○政策広報室次長 ○事務局（広報広聴課 政策調整課）
【概 要】 1 開会 2 市長あいさつ 3 参加者自己紹介 4 意見交換・懇談 5 閉会
【意見交換・懇談】
○旧西岐波団地の解体について 【自治会連合会長】 ・解体、撤去を早く完了してほしい。 【市長】 ・着実に撤去を進めていきたい。
○西岐波地区内の漁場の不漁について 【自治会連合会長】 ・市の下水道の排水がきれい過ぎるため、水産物が採れなくなったと思われる。海水の水質検査を行い、必要な成分が流れるようにしてほしい。 【市長】 ・一昨年から下水処理を調整し、リンなどが海に流れるようにし、海の環境をより自然に近いかたちへと少しずつ整えている。 ・水産業の振興計画の策定を予定している。漁業資源の確保、漁業環境の改善に取り組

んでいきたい。

○地域が取り組んでいる事業への継続支援について

【コミュニティ推進協議会長】

- ・市制施行 100 周年記念事業の市民プロジェクトとして、中学校美術部の生徒と白土海水浴場シャワー室の外壁のペイントに取り組んでいる。完成は来年になるので、継続的な支援をお願いしたい。
- ・白土海水浴場は、地区の憩いの場であるが、現在駐車場がなく、海水浴場シーズンや地域の行事の際には、民間の空き地を貸してもらっているが、宅地化されたら使用できなくなる。駐車場の確保をお願いしたい。

【市長】

- ・引き続き支援していきたい。
- ・駐車場の確保については、常設、臨時でどの程度の駐車場が必要なのか等、担当課に確認し、検討していきたい。

○地域内交通の支援について

【コミュニティ推進協議会長】

- ・地域内交通の導入については、最終的に地域で運営できるようになるまで、しっかりとサポートしていただきたい。

【市長】

- ・地域内交通については、住民の皆さんのニーズを把握して、使いやすい地域内交通にしていきたいと思っている。使われる方の立場に立って整理していきたい。

○コミュニティ広場の整備について

【コミュニティ推進協議会長】

- ・市民センター2階では子育てサークルの利用も開始されている。コミュニティ広場を駐車場として利用しやすいように整備してほしい。可能であればアスファルト化し駐車場のラインを引いてほしい。

【市長】

- ・前向きに検討はしているが、アスファルトで舗装すると、石垣が崩れてしまう可能性があり、多額の費用がかかるため、工法等を慎重に検討する必要がある。

○スポーツ広場の整備について

【コミュニティ推進協議会長】

- ・西岐波地区には、子どもから大人まで、のびのびとスポーツが楽しめるスポーツ広場がない。将来的には西岐波団地や床波漁港の跡地を活用して、スポーツ広場を整備してほしい。

【市長】

- ・西岐波団地の跡地は、かなり高低差があり、平地にするための費用がかなりかかると聞いている。現時点では、撤去後は民間に売却することを検討している。運動公園は難しいかもしれない。
- ・床波漁港跡は、今後、新たに漁港を整備していく予定で、テトラポットが増える可能性もあり、すぐに運動場とするのは難しい。
- ・南方八幡宮横のスポーツ広場については、皆さんが快く使えるスポーツ広場にしていきたいと考えており、庁内でも協議を進めているところ。地元の皆さんからもぜひご意見をいただきたい。
- ・市全体ではスポーツを通じた健康づくりの取り組みを進める予定であり、各地でスポーツができる広場を用意していきたいと考えている。

○イベント時の飲食に関する今後の指針について

【コミュニティ推進協議会長】

- ・コロナ禍での地域の活動、行事をどうするか迷うことが多い。ワクチン接種の状況等を見ながら、飲食を伴う夏、秋の行事について運営協議会の中で検討していきたいと思っている。市として何か情報があれば教えてほしい。
- ・市の花火大会や宇部まつりの開催状況が分かれば教えてほしい。

【市長】

- ・ワクチン接種に関しては、国の状況で変わってくる。市では、医師会としっかり連携して実施していく。
- ・感染リスクが下がるノウハウ等が出てきている。イベントについては、コロナ禍でも実施できる方法を考えていく必要がある。開催目的に合わせた開催方法を検討することが大切である。イベント開催を検討される際は、市にもご相談をいただきたい。
- ・花火大会については、商工会議所等と協議して決定するが、開催は厳しいのではないかとと思っている。宇部まつりについては、担当課に確認する。

○市の税収増について

【社会福祉協議会長】

- ・税収を上げることが大切と思う。企業誘致、移住政策の推進などで、税収を上げていく方法を考えていただければ、社会福祉、老人福祉など上手く進んでいくのではないかと感じている。

【市長】

- ・お考えのとおりである。まずは仕事をつくることが大切であると思っている。今年度から、市内にある大学などの研究機関、国、県、市、民間企業と連携して協議会を立ち上げ、新たな成長産業を創出する取り組みを始めている。新しい産業を育て、既存産業を伸ばし、企業、人が集まるまちづくりを進めていきたい。
- ・産業振興計画も策定予定である。

- ・コロナ禍で、都会の人たちが密を避けるため、地方への移住を希望する人が増えている。ときわ公園にオフィスをつくりたい、実証プロジェクトの場として提供してほしいなど、引き合いがきている。「ときわ公園実証フィールド活用プロジェクト」を立ち上げる予定である。市の可能性を伸ばす取り組みを進めている。

○市主催のスポーツ大会・スポーツイベントの減少について

【社会福祉協議会長】

- ・以前は、地区や市のスポーツ大会が活発に行われていた。最近、市主催の大会が減ったためか、地域の大会が盛り上がりなくなった。市主催の大会を復活してもらえれば、地域もスポーツを通して子どもたちともふれあうことができると思う。

【市長】

- ・スポーツイベントについては、スポーツコミッション、体育協会などと共催という形で行っている。イベントが具体的にどの程度減っているのか、についてはデータを持ち合わせていない。まずは現状を把握したい。
- ・スポーツ大会を開催していくことで、地域の皆さんの結びつきや、健康寿命の延伸にもつながるので、しっかりと支援していきたい。

○介護保険について

【社会福祉協議会長】

- ・介護保険について厳しく見直されたという話も聞いている。もう少し高齢者の立場になって考えていただきたい。

【市長】

- ・長寿命化により、高齢者福祉が多様化している。現場の皆さんの声を聞きながら対応させていただきたい。宇部市はデイサービスの利用率がとても高く、そのため、介護保険料が高い。逆にいえば、デイサービスの施設が充実しているということである。バランスをしっかりと見定めていく必要があると思っている。

○学童保育の学年制限について

○社会教育について

【婦人連絡協議会長】

- ・西岐波地区の学童保育の受け入れ人数が増えている。指導員も少ない。部屋も足りない。学童保育の対象を小学3年生までにしてもらえないか。
- ・市は、地域や学童保育の状況を現場にきてしっかりみてほしい。
- ・親を対象とした教育の場が必要ではないか。
- ・ボランティアカレッジなどの社会教育の場が必要ではないか。

【市長】

- ・学童保育について、低学年だけにするとというのは、国の方針とも合わないため難しい。
- ・学童保育の社会的なニーズは一層高まっているので、子どもたちにとってどのような

環境が一番良いのか、という視点を一番重視して、学童保育のあり方を検討していく必要がある。

- ・地域には専門知識をもった方々がおられると思うので、そのような方々の力を借りられるよう、地域の活動に参加してもらいやすい環境を整えていく必要があると考えている。県においても、専門的知識を持った方がボランティアとして活動する「プロボノ」という取り組みを導入しようとしている。
- ・親の教育の場というより、親が困ったときに相談できる場が必要ではないかと思っている。市でも設置してはいるが、まだまだ十分に機能していないところがあるかもしれないので、しっかりと対応していきたい。
- ・他地区では、社会教育課がなくなり、地域における教育活動について相談ができる窓口がなくなったという意見があった。相談窓口などを整えていきたい。

○環境衛生連合会の助成金について

【環境衛生推進協議会長・ふるさと運動実行委員会会長】

- ・宇部市環境衛生連合会からの助成金が現金で支給される。口座振込にできないのか。
- ・段ボールコンポストについて、市の廃棄物対策課に予算を組んでもらっているが、宇部市環境衛生連合会と重複している。市の予算に一本化できないか。

【市長】

- ・金銭の受け渡し方法は、連合会の理事会等によって協議決定されることになっているが、キャッシュレスの可能性、新しい仕組みを活用しながら公正かつ効率的な運営に努めることができるよう取り組んでいきたい。
- ・市長就任後、市政の整理整頓、棚卸しを行っているところ。昨年度だけで5億2600万円を縮減した。今年度、民間委員で構成される行財政改善委員会を立ち上げた。今日のご提言については、市民にとって必要な事業か、委員会に諮って、チェックさせていただきたい。

○子どもの遊び場所について

【ひと・まち・絆会長】

- ・雨の日の子どもの遊び場所が少ない。財政が厳しいのは分かるが、例えば、ときわ公園の一角に遊び場所をつくるのはどうか。
- ・子どもを連れてよく利用していた恩田プールが廃止になってしまった。子どもの居場所について考えていかなければならないと思う。

【市長】

- ・子どもの居場所については、前市長時代から、子どもプラザの設置について検討しているが、その設置場所としていた旧山口井筒屋宇部店の建物について、現在、ゼロベースで検討し直しているところである。
- ・子どもプラザの機能を持った施設、雨の日でも子どもたちが遊べる場は作りたいと思っている。

- ・山口宇部空港の公園に大型遊具を設置することについて、県と協議しながら進めている。子どもたちの居場所になるようにしたいし、また、家族が相談できる機能も整えたいと考えている。
- ・今年度は恩田プールのところに仮設の子ども用プールを設置して、水で遊べるような場所を確保したいと思っている。また、今後、子どもたちが水に接することができる施設を検討しなければならないとも思っている。

○自治会活動への参加、活性化について

【ひと・まち・絆会長】

- ・エヴァンゲリオンを活用して活性化できないのか。
- ・西岐波地区のイベント開催に携わっているが、20～30 歳代の運営側の協力者が少ない。イベント運営の引継ぎが上手くいっていないという現状もある。

【市長】

- ・エヴァンゲリオンは今、非常に注目を浴びている。宇部市を愛してくださっている庵野監督の想いに応えたい。市民の皆さんからもさまざまなご提案をいただいている。現在、さまざまな計画を練っているところである。皆さんと協力しながら取り組んでいきたい。
- ・20～30 歳代の方に情報が届いていないことも原因のひとつと考えられる。マチマチという SNS を活用しながら、地域のイベントや動き、防災訓練の情報など参加率が低い世代に届けるようにしていきたいと思う。また、情報の内容の充実に取り組んでいきたい。

○防災について

【ひと・まち・絆会長】

- ・自助が大切だと思う。防災訓練では、炊き出しなどの訓練も年に数回でもできれば良いと思う。
- ・備蓄は小学校の体育館とされているが、各地区の備蓄のあり方も地区全体で見直す必要があるのではないかと。廃棄物をどこに集約することも課題である。
- ・地区が被災した場合の外からの支援、ボランティアの受け入れ体制、窓口の一本化や避難所の運営管理における責任体制等について、宇部市国土強靱化地域計画も策定されたところではあるが、地域全体で考えておく必要があると思う。

【コミュニティ推進協議会長】

- ・今年度もコロナ禍で地域活動、事業がどうなるか分からない。市の助成金を、防災対応に回すことができるよう、昨年同様、ある程度自由にできるように考慮してほしい。

【市長】

- ・いただいたご提言を参考にさせていただきながら改善に努めていきたい。
- ・避難場所が足りないという意見が他地区で出ている。今年の台風のとき、避難場所に指定されている学校が開かなかった地区があった。避難場所が密になり、帰った方が

いる地区もあった。担当課と抜本的な改善を図っていききたい。

- ・他地区では、近所の体制を整え、身近な人たちで助け合う「共助」の体制を整えたいとの話があった。市では、避難について、要支援者の方（高齢者、障害者の方）については、民生委員の方々の力を借りながら個別支援プランを作っている。いざというときに、使えるものにしたい。
- ・避難をする際に傷病者等の運び方のコツがあるようだ。理学療法士、作業療法士の皆様にご協力いただけるとのことなので、ご指導いただき、避難体制をしっかりと整えていききたい。
- ・備蓄のあり方や、災害時にでる廃棄物をどこに集約するかは大きな課題である。計画やプランを検討したい。

○今後の市政懇談会の開催について

【自治会連合会長】

- ・半年に1回くらいやっていただきたい。

【市長】

- ・今回の市政懇談会で終わりではない。皆さんとの意見交換は、これからがスタートである。
- ・皆様からいただいたご提言、しっかりと市の方で受け止めさせていただいて、皆さんの暮らしが少しでも良くなるように行動していききたい。
- ・市民の皆さんが暮らしやすくなった、というものを積み上げていくのが我々の責務と思う。そして未来へのビジョンを示し、まちづくりをして、人を集め、その上で暮らしやすさを追求していく。それが我々の使命である。しっかりと取り組んでいくので、引き続き様々なご提言をお願いしたい。